

平成 21 年度第 3 回石狩市使用料、手数料等審議会会議録

開催日時：平成 21 年 11 月 27 日（金） 14:30 ~ 15:25
開催場所：石狩市役所 3 階 庁議室
出席者：加藤良己、山澤憲司、若林厚一郎、熊谷美香、越智 一、渡邊信善、大田雅弘、
成田和代、池田京子
欠席者：吾田富士子
事務局：加藤財政部長、大塚財政課長、佐々木主査
説明員：清水社会教育課長
傍聴者：なし

【開 会】

事務局（大塚課長）：本日は、ご出席いただきありがとうございます。只今より「使用料、手数料等審議会」を開会いたします。なお、吾田委員より欠席の連絡がございましたので、ご報告申し上げます。

はじめに、本年 8 月に本審議会委員に委嘱させていただいた後、初めての開催のため、会長・副会長が選出されておられませんので、会長を選出するまでの間、事務局において会議の進行を務めさせていただきます。

会長、副会長の選出は、条例に基づき委員の互選により選出することになっておりますが、前回からメンバーも変更になっておりますので、後ほど皆様に自己紹介をいただきたいと存じます。それでは、はじめに事務局の紹介をさせていただきます。

加藤部長：本審議会の事務局を担当しています財政部の加藤と申します。よろしくお願いいたします。

大塚課長：財政課長の大塚と申します。よろしくお願いいたします。

佐々木主査：財政課の佐々木と申します。よろしくお願いいたします。

大塚課長：以上で事務局の紹介を終わります。それでは、若林委員から時計周りで自己紹介をお願いします。

【自己紹介】

若林委員：親船に住んでいる若林と申します。よろしくお願いいたします。

越智委員：石狩市連合町内会連絡協議会推薦の越智です。よろしくお願いいたします。

熊谷委員：公募で委員になりました熊谷と申します。よろしくお願いいたします。

山澤委員：山澤と申します。花川北に住んでいます。よろしくお願いいたします。

加藤委員：北 5 条で仕事をしております。加藤でございます。よろしくお願いいたします。

渡邊委員：体育協会推薦の渡邊と申します。よろしくお願いいたします。

成田委員：石狩消費者協会の成田と申します。よろしくお願いいたします。

大田委員：文化協会から推薦されました大田と申します。よろしくお願いいたします。

池田委員：石狩市民生委員連絡協議会におります池田京子と申します。よろしくお願いいたします。

【会長・副会長の互選】

大塚課長：それでは、会長、副会長の選出を議題といたします。選出方法について、何かご意見ございませんでしょうか。渡邊委員をお願いします。

渡邊委員：引続き会長には加藤良己委員、副会長には山澤委員を推薦したいと思います。

事務局（大塚課長）：只今、渡邊委員より、会長に加藤委員、副会長に山澤委員のご推薦をいただきました。このとおりご承認をいただきたいと存じますが、ご異議ございませんか。

～「はい」との声あり～

それでは、会長に加藤委員、副会長に山澤委員をお願いしたいと思います。それでは加藤会長にご挨拶をいただき、引続き進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長挨拶】

加藤会長：加藤でございます。只今、審議会の会長にご承認いただきました。またこれから色々と

審議が始まりますけれども、よろしくお願ひします。

大塚課長：ありがとうございます。それでは開会に先立ち、白井副市長より諮問させていただき、ご挨拶を申し上げたいと存じます。

【諮問】

白井副市長：市長が公用のため出席かないませんので、私から諮問させていただきます。

本日の諮問は、(仮称)石狩市学び交流センター使用料の新設について、ご審議いただきます。

【副市長挨拶】

各委員の皆さまにおかれましては、それぞれ日頃から行政全般にご尽力を賜っております中で、この度委員の委嘱につきましてご快諾をいただきました。心からお礼申し上げます。

この審議会は、本市の使用料、手数料等について、その受益に対して適切な対価の設定にあたって、市民参加のもと、公平な議論を踏まえて決定できるよう、市の条例として平成 13 年度に設置されたところでございます。

前任期の審議会におきましては、行政財産使用料のほか、受益者負担の公平性の確保を図る観点から、改定が必要とされる使用料、手数料等についてご審議を賜ったところでございます。

こうした中で石狩市の財政状況につきましては、平成 18 年度の「財政再建計画」の策定以来、その根幹である事務事業の見直しをはじめとする行財政改革の結果、なんとか黒字経営に至るということで、改革の成果が徐々に現われてきていますが、依然として市財政は厳しい状況であることに変わりないところであります。

また、政権交代もございまして、地方財政を取り巻く環境も大きく変化することが予想される中で、平成 22 年度の予算編成は、財政再建という趣旨・目的を疎かにすることなく、堅実な財政規律の意義を大前提としながら、鋭意取り組んでいるところであります。

今回の使用料の新設におけるご審議につきましては、委員各位におかれまして、本市の貴重な財源であること、また一方で利用者にとって満足がいく価値の設定が必要であるということから、多角的な視点に立って料金設定が必要であり、何卒、宜しくご審議を賜りたく、また本件について具体的に担当より説明がなされますが、各委員におかれましては、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

大塚課長：副市長におかれましては、公務がございましたのでここで退席させていただきます。

これより、会議の進行を加藤会長にお願ひいたします。

【審議】

加藤会長：それでは、今回諮問ありました議題につきまして、事務局から説明をお願ひいたします。

加藤部長：本日諮問させていただきました、(仮称)石狩市学び交流センター使用料の新設につきまして、その主旨等についてご説明をさせていただきます。

平成 22 年 3 月末に若葉小学校との統合により閉校することとなっている紅葉山小学校の施設を、(仮称)石狩市学び交流センターとして整備するほか、特別支援学校を誘致し、複合的な施設として活用することとしています。

当センターは、市内全域で活動している社会教育関係団体をはじめ、多くの市民の利用を想定し、「学習活動」また「創作活動」など総合的に行うための場とするものです。

今回は、同センターの使用料を新設しようとするものです。よろしくご審議をお願ひいたします。

なお、詳細につきましては、担当課長からご説明させていただきます。

清水社会教育課長：私から資料に基づいてご説明申し上げます。

今般、若葉小学校と紅葉山小学校が統合され、その後、空き施設となる紅葉山小学校について、どのように有効活用を図るかということで、市民の方々、あるいは関係団体、道庁などと協議してきたところです。先ほど説明がありましたように、全体を社会教育施設として設置した上で、その一部には道の特別支援学校を誘致し、これまでにない形、更に向上させていくという考えに基づいて進めているところです。

料金の中身の説明の前に、資料の 2 番目の図面を見ていただきたいと思います。現在の紅葉山小学校の 1 階平面でございまして、白い所が道の特別支援学校に利用する部分です。その他に 2 階部分も道が利用することとなっています。

白い部分の下側に網掛けがありますが、この部分が本日料金設定をご説明させていただく所ござ

います。「研修室 1」「研修室 2」「研修室 3」「視聴覚室」「研修室 4」「多目的ホール」の 6 箇所の料金を設定です。

また、右上の「現：児童サービス 1、2」は、右下の「新：児童デイサービス 1、2」の方に移っていただくことになります。この「児童デイサービス」部分については別の料金設定であり、本日の案件には該当しておりません。

この「新：児童デイサービス 1、2」とその隣の研修室 4 の 3 部屋は、現在も紅葉山カルチャーセンターとして市民や社会教育団体が利用しているスペースであり、そういった点では「研修室 4」はそのまま新しい学び交流センターに、同じ機能が引き継がれることになりますので、ここの料金が本日議論していただくポイントの一つになるうかと考えられます。

また、今までの紅葉山カルチャーセンターの機能をアップするため、「視聴覚室」と「多目的ホール」という 2 つの機能が付加されます。

「視聴覚室」は、70 名程度の市民講座や講演会ができるスペースと考えております。現在も市内には、「りんくる」「北コミセン」「公民館」に視聴覚室がありますが、「りんくる」は 50 名程度、「公民館」も 50 ~ 60 名程度、「北コミセン」は 30 名程度の収容能力です。今「市民カレッジ」というものを市民の方々と運営していますが、定員オーバーの場合は抽選させていただくなど支障が出てきている中で、70 名収容できる視聴覚室に期待しております。また、ピアノを設置して合唱の練習など、そういった魅力もあると考えています。

「多目的ホール」では、50 名程度収容したミニコンサートや個人が発表する場所、そういったスペースになればと考えています。こちらにもピアノの設置を考えています。

この学び交流センターを考えるにあたっては、公民館や紅南小学校の紅南カルチャーとの機能分担をどうするかということが重要と考え、8 月、9 月に市民のワークショップを開催し、様々な貴重な意見をいただきました。その中で、新しい学び交流センターと公民館、紅南カルチャーセンターを上手く機能分担して活用すべきというご意見をいただいています。

学び交流センターの新たな機能の部分は、公民館や紅南カルチャーセンターには無い機能ですので、市民や社会教育関係団体の方々には、新たな発想や使い勝手の良さを感じていただけるのではないかと感じています。

最後、本題の料金設定ですが、資料の 3 ページ目をご覧ください。この使用料等実態調査表は、概ね $1\text{m}^2 \cdot 1\text{時間}$ あたりの単価を算出するためのもので、上段が維持管理費、下段が減価償却費となっています。維持管理費として、人件費、これは私ども社会教育課あるいは公民館の職員が、この施設管理にどれだけ関わるかという部分で、例えば、私、課長が 0.01 人工で 10 万 3,000 円となります。

また、その他、委託料は 500 万。建物全体ではなく、グレーに網掛けした部分について、何とか 500 万以内に収めて運営したいと考えているところです。これらを合わせた維持管理費の合計が 557 万 8,000 円です。

次に、減価償却費ですが、建設費の面積按分で、1 億 2,438 万 2,000 円と出ています。これは、6 億 1,430 万 6,000 円を面積按分している数字で、この元々の 6 億 1,400 万は、建物の複製価格で、今現在ある建物を現在の時点で建築した場合にいくぐらいになるか、それと古くなっていますので、年平均減価額に経過年数を掛け、その分を引いて出したのが 6 億 1,400 百万円です。それを全体の面積から当該面積に比例配分しますと、1 億 2,438 万 2,000 円となります。その他、0.9、0.022 は、残価率あるいは耐用年数から求められる係数です。これらの係数により、減価償却費 246 万 3,000 円ということで、先ほどの維持管理経費との合計 804 万 1,000 円となります。

この施設の年間開館日数は 305 日、1 日の開館時間は 12 時間、こういった部分でそれぞれ原価算定対象経費を出していきますと、1 日あたり 2 万 6,364 円、それを 1 時間あたりに換算しますと 2,197 円、そして最終的に $1\text{m}^2 \cdot 1\text{時間}$ あたり単価は 3 円 69 銭となります。この数字をそれぞれ研修室 1、2、3、4、視聴覚室、多目的ホールの面積に掛け合わせて出したものが、資料 1 ページに出しています研修室 1、2、3、4 が 100 円、視聴覚室は 200 円、多目的ホールは 300 円となります。

また、括弧書きの 1,000 円、1,900 円、2,900 円は 1 日あたりの金額で、12 時間利用するというところで 12 倍しておりますことと、1 日使用する利用者のスケールメリットを出すために 2 割引、0.8 を掛けた数字で出しているものです。

今回設定する研修室 4 は、表の右側にあるように、現在の紅葉山カルチャー和室 100 円と同じもの

ですので、この関係性が非常に重要になります。資料 4 をご覧いただきたいと存じます。

資料 4 は、類似施設の料金を示しているものです。1 番上が公民館です。次が学校施設、見ていただくと分かりますが、公民館と学校施設の料金では、若干部屋の大きさも違いますが、公民館本館の方が高くなっています。これは、職員が 9 名ほど張り付き対応しているということで、計算的に人件費が影響してこういう状況になっているところです。

1 番下の部分を見ていただきますと、左下が紅葉山小学校、現在のカルチャーセンターの料金設定です。若干の面積の違いは、紅葉山小学校の和室は畳の部分だけの面積を算出していたので、統一的な算式にするため、今回 76 m²とさせていただきます。

現在、紅葉山カルチャーセンターに登録している団体が 22 団体、そのうち定期利用をしている団体が 15 団体、また、今年度、紅葉山と合併しようとしている若葉小学校の若葉カルチャーセンターが現在休止中であることから、そこから幾つかの団体が紅葉山カルチャーや公民館に移動しています。

この紅葉山の定期利用 15 団体は、おそらく引き続き利用していただければと思いますし、公民館に一時的に避難している若葉カルチャーの 7 団体、全てではないかも知れませんが、新しい交流センターに行く団体もあるかと思われますので、現在の料金との関係性が非常に重要と考えまして、今回積算したところ、同じ面積の部屋は同じ、日額は若干 100 円ほど変わりますけれども、現在使っている方、あるいは新しく利用していただく方には、非常に使いやすい料金設定になっているのではないかと考えています。

加藤会長：今、若葉を使っている人たちは、全部どこかに移動しているのですか？

清水課長：はい、公民館に 7 団体避難しています。その他、紅葉山や紅南カルチャーにも一部避難しています。

そういった点では、新しい施設がなくても、定期利用している団体についてはほぼ充足している状況です。ただ、これは相当各団体にご配慮をいただき、空いている時間、曜日に移ってもらう働きかけをしまして、結果的に満杯状態です。

加藤会長：現在の若葉カルチャーセンターは、合併して開校すると全部無くなるのですか？

清水課長：まだ決定ではありませんが、その機能のうち、陶芸室と陶芸釜については、市内でも貴重な場所の 1 つですので、何らかの形で使っていただくよう考えています。

加藤会長：若葉小学校で使うということですか？

清水課長：第一義的に学校が積極的に使うということは恐らくないと思います。それよりも、むしろそれを使う市民団体が、子供達に教える機会を設けるような形が出来ないか検討しています。

加藤会長：現在、若葉小学校を使っている方たちは 1 日 100 円ですか？

大塚課長：資料 4、参考のところ若葉小学校、基本的に洋室の 100 円です。

加藤会長：この金額とだいたい今の研修室 4 つは同じ値段ということですか？

大塚課長：そうです。

加藤会長：だから、移るといっても何ら変化が無い、負担増にはならないということですか？

山澤委員：資料 3 の委託料とありますが、簡単に言えば朝は鍵を開けて、夜は鍵を閉めて電気を付けたり消したり、そういった人に関する委託費ですか？

清水課長：それも含まれますがごく一部で、電気料や燃料費など全部込みです。

山澤委員：委託業者に人件費やこのエリアの光熱水費、全部込みで 500 万ということですか？

清水課長：そうです。

山澤委員：12 時間の開館ですから、実際に張り付く人は 2 人になるのでしょうか。

清水課長：そうですね、やはり 12 時間ありますので、1 人が基本 8 時間とすると 1.5 人、あるいは 1.625 などという計算になってくるかと思います。

加藤会長：この委託費 500 万の中に、管理人の給料も含まれているとしたら、若干バランスがおかしいのでは。

清水課長：色々な部分で節約しながら、あるいは私どもの関わりの中で人件費の部分を上手く含めてはどうかと考えています。12 時間全部となると、もっと金額的に上がってくる可能性があります。これは最低限度という数字で、出来るだけ料金が跳ね上がらないよう、利用する人が借りやすいように、500 万に抑えて料金設定をしたところです。

加藤会長：これは直営ではなく委託ですか？

清水課長：そうです。まだ具体的に決まっていますが、どこかに委託します。

加藤会長：料金が 500 万円以上、例えば 1,000 万になったという場合に 500 万は市に入るのですか、それともその 500 万はどうなるのか。

清水課長：指定管理制度は今のところ想定していませんので、委託管理という方法で使用料は全額市に入ります。指定管理であれば、ご存知のように指定管理者に入ります。

加藤会長：今のところは全額市に入ります、市から 500 万なら 500 万で委託します、という考えですね。

山澤委員：開館日数は 305 日ですから 60 日が休館ですね。図書館あたりもそのようになっているのですか。

清水課長：火曜日と年末年始くらいをイメージして、305 日となります。

渡邊委員：市の中核となる公民館のあり方、例えば、これから空くこととなる学校を公民館的な位置付けとして使っていくなどの考え方は？

清水課長：公民館については、かつての花川中学校の跡を利用し現在 21 年目になりました。今回、学び交流センターに併せて再編する検討もしましたが、公民館はこちらで非常にいい部分もあるということが改めて検証できました。

具体的には、幹線道路に面しており車の導入が楽で、沢山の車を一度に収容できる。一方、学び交流センターは、車を排除している、幹線道路とのアプローチに奥行きがあって分かりづらい、駐車スペースがとりづらいということもあり、あまり沢山の車を収容するスペースが難しいということがあります。

また、道の特別支援学校を誘致したいというタイミングがありまして、複合的な利用をした方が、よりこの建物を有効活用できるということで、先ほど、3つの施設の機能分担の話をしました。公民館は車を止められる、それと調理施設、水回りの使い勝手がいい、あるいは創作活動をする部分も非常にいいということもあり、出来るだけ有効活用したいという気持ちです。

将来的な学校の空き状況については、今現在、具体的にどこの学校をどうするという打合せはしていませんが、基本的なスタンスとして、学校も含め公共施設に空きが出る時には、いかに有効活用していくかが大事と考えています。今回の学び交流センターもそうですが、紅葉山小学校が無くなった後も地域の人がそれを守っていくということが、行政として大事なステータスであると思っています。

加藤会長：今度開放する研修室や多目的ホールと道で使用する施設はきちりり区別をつけるのですか？

清水課長：図面を見ていただきますと、多目的ホールの境目、それと玄関ホールのところ、これは完全に縁切りされますので、全く別な建物になります。行き来ができない状況になります。

加藤会長：体育館は道に貸すことになっていますね。そうすると黒く囲まれた部分は完全に独立したところと考えてよろしいですね。

池田委員：黒い線で囲んだところは道ということですね。白い部分、体育館や上の部分も道に貸すということですか？

清水課長：はい、そうです。

池田委員：道の特別支援学級が出来るのですか？

清水課長：はい。手稲の星置に養護学校があり、そこが今パンク状態になっています。石狩からも何名か行ってまして、市内で小、中、高等部までとなると非常に特別支援教育が向上するということで、保護者の方々から強い要望を受けております。

私どもとしても、まだ高等部までは決まっていますが、今、そういった特別な教育を受けさせたいという部分で二の足を踏んでいる父兄の方も、ハードルが非常に下がって受けやすくなるのではないかと、そういった部分で特別支援教育が向上するのではないかと考えています。

具体的には決まっていますが、石狩の子供達を中心に、例えば、この近辺の北区であるとか東区、当別などが入る形になるのではと思っています。

山澤委員：1カ所を2カ所にして、近間でやろうということですね。

熊谷委員：養護学校の管理は全く別でやることとなり、関わりが無くなるということですか？

清水課長：この建物全体を石狩市学び交流センターとしまして、オーナーと言いますか、管理者は教育委員会、社会教育課が全部担うことになると考えています。日常的、簡易な管理は学校にしてい

ただきますが、その他の管理、防火を含めオーナーとしての管理は教育委員会が担うこととなります。

熊谷委員：一括して事務室、管理人室でやるということですか。

清水課長：事務室は、基本的にはグレーに網掛けした部分だけとっています。

若林委員：類似施設の料金として、公民館、学校施設、学び交流センターとありますが、これらを学び交流センターに合わせ、統一的な料金設定にするという方法は考えられないでしょうか。

大塚課長：公民館は別として、学校施設の空き利用をしている若葉、紅南と紅葉山とありますが、これらの部分はある程度、整合性はとれていると思います。

ただ、個別の状況が多少違う部分もあって、さらに今回学び交流センターが加わるとなると、トータルで整理するのはなかなか難しいところがありました。今使っている紅葉山カルチャーセンターの人たちが概ね研修室 100 円ということで、その辺りに配慮したところですが、全部を統一するというのはなかなか難しいと思っています。

加藤会長：ほぼ同じ広さのものは、全部 100 円にされています。多目的ホールと視聴覚室はピアノがあるなど色々違いがあります。こう見ますと、大体他と整合性をとった形になっているとは思いますが。

成田委員：ピアノが 2 ヶ所にありますが、その維持、調律のお金などは見ているのですか？

清水課長：はい、見えています。

大田委員：料金がほとんど変わりなく利用出来るということは、利用者としては非常に有り難いことだと思います。

加藤会長：負担増にはならないということですね。特殊な視聴覚室などは別としましても、一応皆さんが思い通りに使えると理解してよろしいですね。

若林委員：資料 3 の右下に使用料算定上の根拠条例等とあり、減免状況とありますが、「減免」するということはいくらか料金をとっているということですか。

大塚課長：中学生以下はほとんどお金をとらない、各種団体で利用される場合は半分減免しますなど一定のルールを設けています。

加藤会長：この使用料等実態調査表も一つの参考資料ですけども、やはり、他との整合性に重点を置いた方が審議し易いと思っています。先ほどお話ありましたように、現在利用している方たちが負担増にならないということですので、これによろしいと私自身考えていますが、皆さんいかがですか？

～「良いと思います」との声あり～

加藤会長：よろしいでしょうか。それでは、今回の件につきましては、提案のあった原案どおりで答申をしてよろしいですか。

～「はい」との声あり～

加藤会長：それでは文案や市長への答申は私に任せさせていただきます、今日はこれで終了してよろしいですか。

～「はい」との声あり～

加藤会長：どうもありがとうございました。

議事録確定 平成 21 年 12 月 28 日

石狩市使用料・手数料等審議会 会長 加藤 良己